

1年で1番短い2月が今週で終わり、おひな様の顔を拝見して、春の始まりと年度の終わりを感ずるこの頃です。越美山系砂防事務所では、来年度も里山探検隊を実施することとなり、参加頂ける隊員の募集を開始しました。

## 里山探検隊 27年度の隊員募集を開始

平成27年度の「里山探検隊」の隊員（参加者）の募集を開始しました。里山探検隊は、揖斐川上流域の山間部で生活する人々の暮らしや文化に触れ、山と水の関わり、水源地保全及び防災の大切さを学んでいただくことを目的に活動します。



26年度の探検隊の風景  
(徳山ダム湖見学)

活動は6月・8月・10月の3回にわたって行い、20名程度の隊員を募集致します。揖斐川、根尾川を巡りながら、様々な魅力を一緒に探検してみませんか。[詳しい募集内容はココをクリック](#) (事務所HPへリンク)

## 雪の中で安全パトロールを実施

2月13日に安全パトロールを実施しました。工事現場の安全管理の状況や施工業者の安全衛生管理体制を点検し、注意を促すことにより労働災害や公衆災害を未然に防止する事を目的として、毎月行っています。パトロールには、各工事の現場代理人の方にも参加を頂き、各現場で意見交換をする事で、お互いの安全管理体制の向上を図って頂いております。雪の中での施工も多い時期ですが、パトロールの実施が、無事に工事を完了する事に近づきます。



寒谷(さむたに)でのパトロールの様子

## 昭和40年(1965)災害／『奥越豪雨』③

### 【揖斐川筋】

#### ドキュメント・東前の谷氾濫、30戸埋没 ①

藤橋村《現揖斐川町》では9月14日午後から雨足が激しくなった。18時頃には時間雨量60mm以上を記録し、20時頃からまた時間雨量30mm以上の雨が3～4時間降り続き、村民は不安な夜を過ごした。翌朝5時には再び時間雨量30mm以上の強雨がたたきつけた。

東杉原集落では、14日20時頃に東前の谷の右隣の宮の谷が氾濫、善勝寺の庫裏へ泥水、土砂が入り、これを機に警鐘が鳴らされて、地区の消防団が出動した。その後の動きについて、「藤橋村史」により紹介すると「同日(14日)午後9時頃から東前の谷が更に狂い始め、大きな転石をゴゴンゴゴンと音を立てて運び出し、住民は異常出水を感じ川の付近の住家では家財道具の搬出を始めた。

こうした流石が村道前の谷橋付近に激突を始め、程なく石垣が崩れ前の谷橋(永久橋)が危険となった。島中精司宅付近から洪水の第一波が村へ流れ込み浸水が始まった。

午後9時30分頃停電となり、同じ頃電話も不通となった。同10時頃前の谷橋が崩壊、東前の谷をはさんで村は孤立となった。

15日午後1時頃から揖斐電《現イビデン(株)》導水路の暗渠が土石や流木で塞がり出し、同7時頃ついに濁水は水路を越えて集落内へあふれ出し、村一面に広がり、流心は右へ左へと流れを変えながら住家のみ、音をたてて全壊するもの、屋根棟がユラユラ動いているもの。高台から見ている全員の顔面蒼白、全く手の施しようもなく、濁水の流れは更に加わり民家の屋根にぶつかるようになった。

村役場へは揖斐電導水路電話で午後5時頃「東杉原は東前の谷の出水で集落全滅」の第一報がもたらされた。消防団が農協その他の車を借り上げ救助に出動、役場に災害対策本部を設け、現地の状況によって救助対策を立てるため連絡を待ったが、現地からは連絡がなく、下流揖斐方面への道路、電話も不通のため、16日午前10時頃、村長は横山ダム管理所の無線を通じて、岐阜県知事に災害救助法の発動と自衛隊の派遣を要請した。」



東前の谷氾濫により集落を流れる洪水

<つづく>

出典：越美山系災害史(原文のまま)

《 》はクマタカ通信転載にあたっての補足箇所  
発行：越美山系砂防工事事務所 平成10年10月



クマタカ通信をメール配信します。配信希望の方は下記宛に「配信希望」とメールを送信して下さい。  
また、クマタカ通信の感想やご意見もお待ちしております。

発行 国土交通省中部地方整備局  
越美山系砂防事務所 揖斐川砂防出張所  
〒501-0619 岐阜県揖斐郡揖斐川町三輪2303-3  
Tel:0585-22-3526 Fax: 0585-22-6626  
E-mail: [ibigawasabo@cbr.mlit.go.jp](mailto:ibigawasabo@cbr.mlit.go.jp)